

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1171000217		
法人名	英和株式会社		
事業所名	グループホームぽっかぽか		
所在地	埼玉県八潮市大字八條50		
自己評価作成日	平成26年11月 1日	評価結果市町村受理日	平成27年 1月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvoCd=1171000217-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvoCd=1171000217-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F
訪問調査日	平成26年12月3日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

広々とした和室や中庭があり、ゆったりとくつろげる空間がある。季節毎のイベントを開催して、たくさんの写真を撮り、壁などに飾る事で利用者同士の会話が弾んでいる。食事に際しても季節毎にその時期に合った食材を使用し、冬は職員と利用者で鍋をかこんで、また夏はカキ氷屋や真夏のラーメン屋を開いたりして職員利用者関係なく皆が楽しめている。利用者一人一人の力を大切に、日々の掃除や食事の盛り付け等の作業を無理なく行っている。レクリエーションでは、職員一人だけが考えるのではなく利用者様にも考えに参加して頂き冗談を言い笑いながら行っている。日曜日は、休日感を味わっていただく為、のんびりと、昼食時はのど自慢を観ながら過ごしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

郊外の広い敷地に立地していて、デイサービスや有料老人ホームが併設されている。リビングなど共用スペースはゆったりと造られていて、大きなソファや和室は利用者がくつろげる雰囲気を醸し出している。事業所の理念は、玄関を始め各フロアや廊下などに掲示され、日常のケアの中で常に確認している。天気の良い日は、日課の散歩や季節を感じる梨狩り、いちご狩り、桜や秋桜の花見など多彩である。また、年に1回は市民文化祭へコーラス参加、事業所での敬老会などの行事に近隣の住民参加、町内会主催の春祭りに利用者が参加するなど地域との交流も活発である。医療機関との連携についても、協力病院が複数あり、体調に変化があればいつでも受け入れてもらえる体制となっている。地元クリニックによる往診も月3回実施され、夜間の緊急対応も可能となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を理解する為に、勉強会を行い理念のボードを玄関と各フロアに設置を行いいつでも見れるようにしている。	事業所の理念は、玄関を始め格フロアおよび事務室に大きく掲示されている。各種会議や新人研修で繰り返し説明されている。また、日々のケア中でも常に理念に立ち返る取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に運営推進会議を行い、施設での行事では参加をして頂き、散歩や買い物に出掛けて地域との交流を図っている。	毎年地域のボランティアと共に、八潮市の文化祭で唄の発表会を行っている。敬老会や春祭りなど行事に地域の住民にも参加いただき、町内会主催の夏祭りに、出向くなどして交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設で行う行事参加により地域交流の場の提供をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で教えて頂いた場所の情報を元に、外出などを行っている。	2カ月に1回運営推進会議を開催している。地域包括、自治会、家族等に参加している。当日は、日々の生活状況、健康状態、行事の報告などを行い、戴いた意見など日々のケアに反映している。	より多くの家族の参加を募る事により、意見を頂きサービス向上に繋がるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターの職員に参加して頂き、情報・アドバイスをもらうことで協力関係を築くよう取り組んでいる。	年に3回ほど市役所主催の施設事業者を集めての報告会がある。その中でグループホームだけの打合せ会もあり、取り組み状況など意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やカンファレンスをし、全員が理解できるように取り組み必要時には緊急会議などを開き流れを確認している。	「身体拘束しないケア」は理念に掲げていて、常に勉強会を行っている。日々のケアの中でも、身体拘束に当たるか当たらないかなど、職員同士確認し合っている。尚、玄関は安全のため夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、理解できるように取り組んでいる。管理者はそれに対し常に目を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、対応時にその都度説明することで知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には口頭での説明を行い、不安や疑問点のないように十分な説明をいっている。改定があった場合は、必ず書面にてお知らせし必要時には、来設頂いた時に説明を行い署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声掛けをし、意見・要望を伺うようにしている。また、玄関に意見箱を設置している。	玄関に意見箱を置いている。また、「ぽっかぽか新聞」を毎月発行して、日常生活や健康状態など報告し、家族の意見を汲み取っている。その他、家族が来訪の際も必ず意見交換を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の表情や動き等を観察し、気になる職員には声掛けし、意見や悩みの問題解決に努めている。	一階に職員用の提案ボックスを置いている。いつでも、職員からの意見や改善事項を汲み取れる仕組みにしている。申し送りは毎日行い全員閲覧の、「実施報告書」により情報共有を徹底している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通し、情報収集と現状把握を行い、職員の力量に合わせて処遇改善金の給付を行う等配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を通し、研修の情報を発信し、該当する職員に受けるように声掛けしている。会社内でのリーダー研修や勉強会を行い、知識を得る機械を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の競技会等にて他事業所との交流・情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント情報を職員が目を通し理解した上でコミュニケーションを増やし、少しずつでも安心できるよう、また信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	細目にご家族へ手紙を出し現状をお伝えし、相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント情報を理解し、入居後の生活を観察していき、今本人が求めているもの、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者も同じ空間で生活を共にしていることを理解し、食事を共にしたり会話を増やすことでも関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族の関係維持に必要な外出などは依頼している。毎月、手紙にて現状報告をしご家族にも相談にのってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからのご友人・知人の面会等を維持出来るよう、また手紙での交流を支援をしている。	昔馴染みの友人や、親族など面会者に来られる。家族同行で馴染みの美容院や、墓参りなど関係が切れないよう支援している。また、年賀状や暑中見舞いなど挨拶状を出す時の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や利用者同士の関係は職員が把握し、時には仲介に入り会話を楽しんで頂いたり、トラブルを未然に防ぎ、より良い関係づくりが出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	話しやすい環境を築き、退去後も本人やご家族より体調等の相談があった時には改善に向けての話しや以前の生活について話しをいつでも出来る様支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や習慣を把握し、本人の言動等から思いを理解し、その方らしい生活を送れるように支援している。	事前に過去の生活歴を聞き取り把握している。日常の会話の中から、音楽の好きな方には、好きなCDを聞き、本の好きな方には、図書館で本を借りるなど、本人の希望や意向を尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から伺ったり、アセスメント情報を見て把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録や日常生活記録により現状の把握が誰でもできるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや担当の月次で、課題や問題を把握している。ご家族にも毎月の手紙や面会時に報告をし、意見を伺いながら一緒に考えている。	初回は3ヶ月後、その後は6ヶ月ごとにモニタリングを実施している。日常生活は担当者が把握し、毎月カンファレンスを行いながら、必要に応じて看護師や往診医と相談しながら支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを活用し、情報を共有している。また担当者が月次を書く事で問題点をカンファレンスで話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今必要なサービスは何か、今までの生活状況を確認しながら現状サービスにとらわれずに広い視野で検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の施設に行ったり初詣に参加し、季節毎の催しを楽しんで頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医より、本人ご家族の納得された上で当施設での往診医と連携をとり、必要に応じて医療情報提供書を頂いている。	地元の医療機関と提携していて、この協力病院はいつでも受け入れてくれる体制となっている。日頃は、提携クリニックが月3回の往診があり、適切な医療を受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を職員が認識した上でナースへ相談し、往診医へ報告、受診できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーにて情報交換し、面会に伺った際には入院中の状況を確認しご家族ともに相談員との話し合いに立ち合わせて頂き、今後について相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時の契約を行い重度化した場合には、予測と施設での可能なケアを説明した上でご家族と往診医と話し、場合により看取りの相談を行い、事業所で出来る事、方針を共有し支援して行く。	入居時「重度化契約書」に則り、看取り対応など詳細説明している。本人・家族等が事業所で看取りを希望する場合は、出来ることと出来ない事を説明し医師と相談しながら、家族の協力のもと、出来る限りの対応をする。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の勉強会を行い全員がカード保持を目指している。また訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行うと共に、各ユニットにマニュアルが置いてある。	年2回消防署立ち会いのもと、防災訓練を実施している。うち1回は夜間対応も実施して、近隣の住人や隣接の施設にも応援をお願いしている。非常用の乾パンや水なども備蓄は万全である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を理解し、その方に合った声掛け、声の大きさ、また他者への配慮も行っている。	呼称は生活歴から、馴染んだ呼び方をしている。トイレには「入っています」「空いています」など札を掲示して、羞恥心に配慮している。プライバシーに関わる話などは、居室で小声で話すなどの対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	性格を理解し傾聴しその方に合った支援を行っている。意思が伝えられない方にも性格に合ったものをご家族と相談し選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、一人ひとりのペースや意思をふまえ考慮し、本人のしたい事を見つけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの嗜好が継続出来る様、ご家族の協力を頂き、普段の生活でも注意しているがイベント時には本人と考えオシャレを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、盛り付けや片付けまでもADLを考慮し利用者と共にしている。また盛り付け時は、目でも楽しめるよう工夫している。	利用者は、配膳、下膳、盛り付け、片付けをしている。おやつにはホットケーキや、お団子など、一緒に楽しみながら作っている。なお、茶碗、箸、お椀などは馴染みの物を持ち込み使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養過多にならないようバランス良く、本人の好みを把握し、食事の際時には声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて行って頂いている。毎晩の義歯消毒も行っている。口腔内に不具合が出た場合は歯科医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗のある方には早めの声掛けをして防いでいる。また、ご家族の負担が減る様にオムツ使用の方にはパットを使用して頂いたりポータブルトイレを設置している。	トイレで排泄を基本として、排泄パターン表ではなく、個別の日々の記録でトイレ誘導している。特に失敗のある人には、配慮しながら声かけして誘導している。夜は、ポータブルトイレを利用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の確認を行い、また排便パターンを把握し、出ていない時には水分補給や運動を促し、さらに腹部マッサージを行っている。それでも確認出来ない場合は往診医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できる環境をつくり整えている。健康管理の為にも週3日は入浴できるように支援しており、季節毎に、しょうぶ湯・柚子湯・バラ風呂を楽しんで頂ける様支援している。	ユニット毎に、週3回の入浴を基本としている。入浴の時間帯は、個人の希望に応じている。ユニット毎に、入浴の日程を決めている。季節を感じる、菖蒲湯、ゆず湯、バラ湯などは利用者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の昼寝や夜間の就寝時間は本人に合わせている。昼間は和室で少し体を休めて頂けるよう、長座布団を用意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師と連携をとり、服薬内容に変化があった場合には状態の変化に注意を行い、情報共有し理解し服薬を行う。内容の変更があった場合には副作用の確認をしご家族に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯干し等、家事が得意な方は率先してやって頂いている。楽しみとしては、季節毎にイベントを取り入れたり、天気の良い日には出来る限り散歩やドライブに出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の状況に応じた散歩やドライブに出かけている。地域のお祭り等にも参加できている。	天候の良い日は散歩やドライブがてら、いちご狩り、梨狩り、桜、秋桜など花見見物など行っている。また、外食は、フードコートなどで選べる食事は利用者に好評である。洋服や衣類などの買物支援も随時行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際やヤクルトが来た時に、本人に選んで頂き購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いの他、本人より依頼を受けたらポストへの投函も行っている。希望があれば電話の取次ぎも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内のテーブルや壁、各居室のドアには季節の制作物を飾り見て頂き季節を感じて頂いている。また、真夏には強い日差しを抑えられるように緑のカーテンを育てている。	和室には掘炬燵があり、リビングの大きなソファは、利用者のくつろぎのスペースとなっている。窓の外にはグリーンカーテンや簾などがある。廊下は皆で作った飾りや写真が季節感を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアソファや和室があり、くつろげる空間がある。また、廊下の小窓から外を眺められながらひなたぼっこをされている利用者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活環境に近づけるように、仏壇や馴染みの家具を持ち込まれている方もいる。	在宅の延長を意識して、基本的には、自宅で使い慣れたもの、馴染みのものを持ち込んで頂いている。掃除は職員がするが、あまり手を入れすぎないよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器を使用しても安全に移動できる広さを確保している。自室やトイレの場所が分かるような環境作りをし、自立支援をしている。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業理念を作成し、常に職員が確認し合えるよう、玄関 などに設置している。また実践の為、勉強会を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事に近隣の町会等を招き、また地域の行事にも積極的に利用者と出向くよう実践している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	項目2を通じ、施設の行事に参加して頂くこと、また運営推進会議において情報交換を行うことにより、理解を深めて頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催している運営推進会議の内容が、リーダーを通じて現場に反映され、サービス向上に活かされるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センター職員に運営推進会議へご参加頂くことで、情報交換を積極的に行い、協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束廃止委員会を設けリーダーの指導及び勉強会を通して身体拘束の内容を職員が理解し、グループホームとしてあるべき、人権を尊重したケアを行うべく努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	リーダーの指導及び勉強会によって虐待防止に努め、虐待の可能性に早期に気づき、防止できるよう外傷や利用者の変化に職員全員が目を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特にリーダーは成年後見人制度の理解に努めている。制度を活用しているご利用者様には必要な際に説明することで、互いに理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様及びご家族等へ、契約条項について事前に十分な説明を行い、ご納得頂いた上で 契約を締結、ご署名ご捺印頂いている。改定は書面でお知らせし、説明責任を果たしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中でご利用者様とコミュニケーションを図り、意見・意向を伺っている。ご家族には面会時に意見を伺うよう努めている。玄関にも意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや勉強会において意見交換がなされており、また、管理者等へは常時提案可能な職場環境となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	項目11のように提案可能な職場環境づくりを行い、処遇改善金の給付を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や資格取得を奨励している。社内においてもリーダー研修等を行い、人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の協議会を活用して交流・情報交換を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当をつけ、本人の様子を細部にわたり申し送り職員全員が共有することでアプローチを検討し、いち早く信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の話し合いによって、ご意見ご要望を十分聞き取るように努め、入居後も連絡・面会を通じて状況を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の十分聞き取りに基づいて、サービスを検討、ケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活の支援というグループホームの理念に基づき過度な介護・介入をせず利用者の生活に寄り添う意識を持っている。食事と共にし、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に向け、定期的の手紙で報告を行っている。いつでも面会に来ていただける旨伝えておりご家族との外出機会も尊重している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	葉書や手紙、電話の取次ぎを行い、面会のご家族やご本人に確認の上、交流できる空間を確保している。項目20のとおり、ご家族との外出機会も尊重している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握しており、行事や家事その他の場面において、状況に応じた介入を行い、利用者同士が円滑な関係を築ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用時に築いた関係性は断切ることなくいつでも気軽に相談可能な環境作りを意識している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活支援という理念・立場から、本人の意思を尊重し居室でも基本的に自由に過ごして頂いている。意思疎通が困難な利用者様についても生活歴、家族からの情報に基づき、本人の意思を引き出すことに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の聞き取り等を通じてサービス利用の経過、生活歴や環境を尊重し、ケアに取り入れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やカードデックスの作成、申し送りを行うことで職員が情報を共有。ご利用者様の状況、状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや月次を作成し、ケアプランの見直しを行っている。ご家族や医療関係にも適宜相談し、ケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やカードデックスの、ユニットの連絡ノートを作っている。定時申し送りを行うことで職員が情報を共有している。また常に提案できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社として外部研修や資格取得といった人材育成を奨励しており、また個々の職員の小さな意見を検討すべく意識がなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	項目2、3に基づき、地域の行事等に積極的に参加しており、また近隣の施設を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前の説明で本人、ご家族のご希望を伺い、承諾されれば施設の往診医による往診を選択して頂いている。適宜ご家族と連携し、専門医による受診が行われるべく支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でご利用者様の状態把握に努め、適宜看護職へ相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提出。面会時には状況把握に努め、ご家族とも情報交換を行う。退院後についても適宜話し合いの場に立ち会い、相談を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の際の契約を書面で交わす。重度化・終末期に至る状況においては適宜ご家族、往診医と相談し、ケアの方針を進めていく		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講、全職員の資格取得を目指している。救急時の対応を表にしており、応急手当や救急訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットにマニュアルが設置されており、年二回防災訓練を行っている。運営推進会議において災害時の協力を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、また他者との関係性にも配慮し、適宜小声で声掛けしたり居室へ会話の場所を移すといった対応を行っている。個人情報の取り扱いについても注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりを通じて本人が希望を表しやすい環境作り、関係の構築に努めている。意思疎通の困難な方についても希望を引き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人間らしい生活を送って頂くために一日の予定をコーディネートしつつ、本人のしたいこと、意思を尊重、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、理美容の利用等含め、普段から身だしなみに気づかい、行事や外出の際には着飾った装いを促す等、配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、嗜好、栄養の他、季節感も取り入れられている。一人ひとりの残存機能に応じた準備・片づけの促しをし、一緒に食事することで楽しい食事を演出している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を観察し、不足がちな方には間食等を提供している。ADLに合わせて、食事をきざむ、食器を選択するといった食べやすさへの配慮も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後促しており、適宜介助にて口腔ケアも行っている。毎日義歯消毒も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを観察・把握し、失敗のある利用者様にはタイミングを見てトイレを促し、ポータブルトイレの設置も行っている。パットの使用により経済的負担軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から献立には、野菜を多く取り入れており、体操も習慣化している。排便状況をチェックし、適宜水分補給を促し、往診医にも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があればいつでも入浴して頂けるよう、環境作りに努めている。グループホームの浴室の他に、併設のデイサービスの大浴場も活用したり、菖蒲湯、柚子湯等の季節の湯で入浴を楽しんで頂けるよう実践している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康的な生活のリズムを促しつつ、日頃の関わりを通してご利用者様の体調・体力の把握に努めることで、適度に意思を尊重し、休息や昼寝を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更については周知の徹底を図り、要様子観察の旨申し送っている。薬の変更における効果・副作用はご家族に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、炊事、裁縫等の役割を担って頂いたり、カラオケその他随時イベントを開催し、生活の楽しみを演出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やご利用者様の状況に応じて、散歩やドライブ、地域行事への参加等外出の機会を作っている。ご家族との外出機会も尊重している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や施設内でのヤクルト購入等、商品を手配し、購入して頂く機会を設けている。個人の預り金についてはその都度預かり証を発行し、担当係は随時お金の出し入れ、残高を確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の取次ぎは、適宜行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所、こまめに清掃を行っており、衛生面には常に配慮している。室内の装飾に季節感を取り入れることで雰囲気演出にも心がけ、職員の声の大きさ、歩き方も不快感を与えぬよう注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファー、和室とスペースを確保しており、居室も含めてお好きな場所でつろいで頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇その他家具の持ち込み等、ご本人ご家族と相談の上、ご本人の安心感や居心地に配慮して居室の環境作りを行っている。職員は生活支援、衛生管理に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、肘掛け椅子の採用、車椅子や歩行器使用に十分な空間の確保等、安全に配慮している。自室やトイレの場所が分かる環境を作り、席順等によりいち早く馴染の住まいと認識して頂ける様努めている。		